

経営協議会における意見への対応について(第Ⅳ期)

開催日	委員からの意見	法人運営への活用(取組)
R4.6.29	<p>(アドミッションセンターについて) 群馬大学における教育の良さ、実情、魅力等をHPで紹介してはどうか。</p>	<p>群馬大学ホームページの受験生向けのサイト(受験生応援サイト)において、「学部紹介」、「授業紹介」、「研究紹介」、「在学生によるキャンパス紹介」、「保護者向け情報」等の情報の充実を図った。 その他、リクルートの「スタディサプリ進路」、昭栄広報の「高大コネクト」、フロムページの「OCANS」において、本学の教育内容をアピールする記事を掲載した。</p>
	<p>大学卒業後に県内で就職してもらえるよう、入試情報と共に、県内企業の魅力についても広報して欲しい。</p>	<p>大学説明会において、キャリアサポート室による就職・キャリア支援の取組についても説明している。その中で、群馬で働くことの魅力や群馬の企業の魅力を知ってもらうための「県内企業と大学生の交流会～ぐんま若者シゴトク～」について紹介している。今後も、大学進学志望者が、就職も見据えられるような大学情報を提供していく。</p>
	<p>(キャリアサポート室について) キャリアサポート室は、企業が大学生に求めている能力を認識し、その能力を身に付けさせる教育改革を先導して欲しい。</p>	<p>キャリアサポート室では、これまでも企業と「養成すべき人財像」と「採用したい人財像」について意見交換を行ってきたところである。また、新たに群馬経済同友会と連携して「『グローバル・ハタラクラスぐんま』プロジェクトに関する講演会」を開催し、企業等で活躍する人財像とその養成の在り方について意見交換を行った。 今後も、企業から意見を聞く機会を積極的に設け、持続可能な地域人財を創出する教育カリキュラムの充実を図っていく。</p>
R4.9.27	<p>(グローバル人材の育成と就職支援について) 地元企業への就職率が上がらないのは、学生や保護者に、群馬県にも魅力ある企業があることが知られていないためだと思う。このため、就職ガイダンスの前段階から、企業と大学が組織的に連携し、群馬の企業の良さを知る機会を増やす必要がある。。</p>	<p>理工学部や情報学部において、学生が企業の課題解決する授業(PBL)が始まっている。これを本格的に展開していくことで、学生が群馬県の企業のことを知る機会を増やしていく。 外国人留学生については、文科省認定GHKG「グローバル・リーダーシップ・プログラム」により、群馬県内企業・自治体との連携を積極的に進めていく。 保護者については、キャリアサポート室を中心に、企業との連携状況を報道発表することで広く周知を図っていく。 また、群馬県の企業への就職を促進するため、産学官金連携を進めていく。</p>

	<p>共同講座や企業人材の派遣など産学連携の具体的な内容が企業に伝わるようにして欲しい。</p>	<p>共同講座や企業人材の大学派遣等については、群馬大学ホームページにおいて具体的な取り組み内容を発信していく。また、インターンシップについては、キャリアサポート室がその実績を公開していく。</p> <p>グローバル人材については、キャリア教育や中長期インターンシップへの企業や自治体の参画を促すため、文科省から認定を受けた「グローバル・リーダーシップ・プログラム」の取り組みを産業界へ積極的に情報を提供していく。</p>
R4.12.22	<p>(リカレント教育とPBLについて) リカレント教育やPBLなどの企業連携の取り組みは、企業の経営者に対してまとめて説明することで、連携協力できる幅が広がると思う。</p>	<p>キャリアサポート室において、リカレント教育やPBLなどの企業連携の取り組みをとりまとめ、窓口を一元化する。</p>